

令和8年度第4回府中市市民協働推進会議録（要旨）

- 開催日時 令和8年8月27日（木）午後2時から4時
- 開催場所 府中駅北第二庁舎3階 小会議室
- 出席委員 青山会長、関根副会長、五十嵐委員、芝委員、柴原委員、高橋委員、竹内委員、田中委員、名島委員、野原委員、花岡委員
- 事務局 大井市民協働推進部長、福嶋協働共創推進課長、加瀬主査、大藤主査、徳吉事務職員

■傍聴者 なし

■議事内容

1 審議事項

- (1) 第1次府中市市民協働推進計画について
- (2) 答申案について

2 その他

■会議録

○会長 第4回府中市市民協働推進会議を開会する。事務局に委員の出席状況などについて報告をお願いする。

○事務局 全て委員の皆様が出席しており、本会議は有効に成立していることを報告する。傍聴希望者なし。続いて資料の確認をする。（資料の確認）

○会長 前回の会議録は事前にご確認いただき、修正したものを会議資料と送付した。追加で修正等はあるか。

（意見なし）

○会長 送付した内容の通り、会議録および資料ともに確定する。

■審議事項1 第1次府中市市民協働推進計画について

○会長 審議事項1について、事務局に説明をお願いする。

事務局より資料1の内容を説明。

○会長 説明が終わった。何か質問はあるか。

○委員 参考の市民幸福度という数値目標について、なぜ幸福度を用いているのか。満足感とは異なる意味で使っているようだが、幸福とはどこからきたのか。

○事務局 市民アンケートの結果より、幸福度という文言を用いている。市民アンケートの設問では、「全般的にみて、わたしは自分のことを非常に不幸/非常に幸福（段階を数字で回答）であると考えている。」、「わたしは、自分の同年代の人と比べて、自分をより不幸な人間/より幸福な人間（段階を数字で回答）であると考えている。」、「全般的にみて、非常に幸福な人たちがいます。この人たちは、どんな状況のなかでも、そこで最良のものをみつけて、人生を楽しむ人たちです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっているか選んでください。まったくない/とてもある（段階を数字で回答）」、「全般的にみて、非常に不幸な人たちがいます。この人たちは、うつ状態にあるわけではないのに、はたから考えるよりも、まったく幸せではないようです。あなたは、どの程度、そのような特徴をもっているか選んでください。まったくない/とてもある（段階を数字で回答）」という設問を用いた。

○会長 府中市民というよりは一個人としてどうかという設問のように思われる。

○委員 府中市が市民の幸福という言葉で施策をしているのかどうか気になる。協働活動の中で幸福に向かっているかということはいいが、一般的な幸福のことを聞いているのであればその定義はどうか。

○事務局 条例の設置目的でも「多様で多層な主体が相互に連携し、協力して地域課題の解決を図り、もって心豊かに暮らせる持続可能なまちの実現」と記載している。
この計画では市民協働の満足度そのものより、協働への参加を通じてつながりや充実感をもってもらい、暮らしの豊かさにつなげてほしいという背景で幸福度という単語を使っている。

○委員 背景は理解した。つながりを含めた心の豊かさを目指していくことには共感できる。しかし「幸福」という表現に違和感がある。幸福を不幸の反対語としていることに違和感がある。言葉の使い方として、「府中市は幸福度を高める施策をしている」というようなPRをしているのであれば理解できるが、そうでなければここは「満足感」や「豊かさ」等の方が誤解がないと思う。

○委員 表現として「幸福」と「満足」のどちらが良いかについて、一市民としては「幸福」が良いと思う。

○委員 冒頭の市長の挨拶では協働することで幸福度が上がるという旨の記載があり、総合計画にもウェルビーイングという部分もあり、市の方針にも出ているため、「幸福度」という言葉を掲載する分には問題ないと思う。各事業の満足度については、確認してもいいと思う。

○会長 「市民幸福度」を深めていきたいという議論は市としてされているのか。

○事務局 市としてこれまでこうした表現を用いたものは無いと思う。協働推進の中でひと

つの物差しとして取ったデータである。そのため、指標からも外している。

○会長 特に外すべきという意見ではないと受け止めた。「はじめに」にも、幸福度につながる旨の記載があるので、そこの部分をもう少し膨らませると、なぜここに幸福度の記載があるか分かりやすくなると思う。

○委員 ウェルビーイングという用語は企業でも良く使われている言葉である。しかし、実はウェルビーイングは適切な訳語がないということでカタカナのまま使用しているケースが多い。イコール幸福ではなく、また「幸福」は人によって様々で一概に定義できないため、ウェルビーイングという言葉で広く包含せざるを得ないケースが多い。

○会長 「幸福度」というと一つの物差しで、みんなの幸福を図ってしまう可能性がある。

○事務局 読み方によって誤解を招く可能性があるという認識が薄かった。「幸福度」に限らず各指標については説明を入れているので、市民幸福度をどのようなニュアンスで使っているかということについて記載をしたいと思う。

○会長 事務局提案の形ですすめ、市民幸福度の定義については、後日確認いただけたらと思う。

○委員 きょうちゃん・どうちゃんのイラストがないが、載せられたらと思うがいかがか。

○委員 前回、載せるという話だったが、デザインはこれからということで良いか。

○事務局 最終版にはイラストを挿入する。

○委員 1点目に、施策の体系について、施策3-1「中間支援組織の育成」の中に「市民協働推進部職場内集合研修」が入っているが、市役所の職員研修に含まれるものではないか。
2点目に、施策4-1で市民協働推進員について出てくる。これは府中市の強みだと思うので、もっと押し出してもいいのではないか。
3点目に、先述したとおり施策3-1から「職場内集合研修」を除いてしまったら、3-1を構成する取組が一つになってしまい中身がなくなってしまうのではないか。

○事務局 1点目については、職員も中間支援機能を担うため、「中間支援組織の育成」の中を含めている。市民活動センターに関しても追加する。
2点目については、推進員の取り扱いは内向きになっている部分があるため、対外的に発信にできるものを検討する。

○事務局 1点目の職場内集合研修について補足だが、市民協働推進部で所管している文化

センター等市民の声を聞く機会が多い施設の職員が中間支援の能力をつけることで、市民協働の推進につながると考えている。

「市民協働推進員の育成」についても、各課が中間支援能力をつけるということで、中間支援機能の一部といえるが、適切な掲載個所を再考する。

また中間支援に関する研修のほかに、協働について広く学ぶ研修もしているが、これは中間支援能力を養成するものとは別のものになる。

○委員 中間支援というと、一般的に官民の間をつなぐものを指すことが多いが、ここでは仲立ちする機能を広く示したものであると理解した。文化センターなど仲立ちができる組織がどこにあるかが分かると理解しやすい記載になると思う。

○会長 ほかに意見はあるか。今ここでなくても、追加で意見があれば、メール等で受け付ける。

■審議事項(1) 答申案について

○会長 それでは、次の審議事項に移りたい。事務局から説明をお願いします。

事務局より資料2のうち計画までの内容を説明。

○会長 計画部分の説明が終わった。ここまですで何かご質問はあるか。事務局には、先ほど具体的に意見として出た、幸福度の件と中間組織を分かりやすく説明する件について、赤枠内に追加してほしい。

○委員 プラッツがどういった施策をしていくかが計画のコアな部分だと思うので、ここがより充実するようにして欲しい。運営は指定管理団体の役目だが、企画は利用者など知識、センス、スキルをもつさまざまな関係者みんなで考えることができると良いと思う。

○委員 課題のところに時間が無くて参加できない場合があるので、オンライン参加や託児など、参加しやすい環境づくりを入れても良いと思う。

○事務局 計画のこの部分を直してほしいといった具体的なものでなくても、各委員個人が普段活動される中での思いについても、この枠内に記載するので、ぜひお聞かせいただきたい。

○会長 ほかに意見はあるか。追加で意見があれば、メール等で受け付ける。計画以降の説明をお願いします。

事務局より資料2のうち計画までの内容を説明。

○会長 説明が終わった。何かご質問はあるか。

○委員 「市民協働・共創促進事業」の質疑応答の際に使用している評価結論の表現の修正に関する記載が、「ファンファーレ」の評価の後にある。修正の対象が「市民協働・共創促進事業」だけで「ファンファーレ」の評価結論の表現はそのままなら、混乱するのではないか。

○事務局 市民協働・共創促進事業の後ろに順番を入れ替える。

○会長 「市民協働・共創促進事業」と「ファンファーレ」の評価結果が連続して記載してあるが、ア、イ、と別の章立てにした方がわかりやすいのではないか。

○事務局 そのように修正する。

(会長) ほかに意見はあるか。

(意見なし)

○会長 A 3 判の資料は、実際の答申書では A 4 判にするのか。

○事務局 A 3 判のままの予定である。

○会長 承知した。他に意見はあるか。

○委員 「市民協働の推進に向けて期待することについて」という部分に、地域のコミュニティの向上をいれてほしい。これが結果的に市民協働の推進につながると思う。

○会長 地域コミュニティの向上というのは、具体的にはどのようなことか。

○委員 人と人とのつながりが豊かになることだととらえている。つながりが一番大切だと思う。ひとりでポツンという方もいるが、取りこぼしがないように、地域コミュニティを大切にして、つながる社会にしていけたらと思う。また、行政と企業が勉強して地域コミュニティを理解して動いてくれるようになると良いと思う。そのためにも研修は必要になると思う。

○会長 企業に対して市民協働について伝える場はあるか。

○事務局 企業に対して説明する機会は現状少ない。今後は、講演会など市が取り組んでいることについて広報することを通じて、企業にも理解してもらえたらと思っている。また、

企業の理解が広まることで、市の施策への理解が深まり、企業からの寄附などの支援につながり、結果的に市の協働に関する施策の充実につながる。最初の入り口は協働を知ってもらうことだが、最終的に寄附にもつながっていけばと思っている。なお、「共創トライアル事業」のうち「学生チャレンジ」については、学生が地域のためにチャレンジしたいという思いを支援するという考え方に理解を示してくれた企業からの寄附が充てられることになった。計画では、協働の推進の体制については触れているが、資金については踏み込めていなかったと思う。推進のための費用面の支援については、今回の寄附等の手法については実績があるため、進めていきたいと思っている。また、受け皿づくりとして、基金などの仕組みづくりを考えていかないといけないと考えている。具体的な手法について、現段階では記載がないが、そこまで踏み込んで計画に入れ込めたらと考えている。

○会長 市民協働を盛り上げるために企業がどうかかわるかという視点で、企業がどのように関われるかという点があると思う。そこで基金という受け皿があることで、寄附すればその資金がプールされて、市民協働に使われるという仕組みは、分かりやすく良いと思う。

○委員 人のつながりにおいて自治会参加が大事だと思う。関心をひくのは防災関連だが、計画の中に防災や安全・安心という観点は入っているのか。

○事務局 安全・安心という点に特化した具体的な取組は計画には含めていないが、すべての事業の根底に安全・安心があると考えており、計画の文章に表現として市民の安全・安心についてのニュアンスを含む記載がないのであれば追加したい。防災を含めすべての取組において、地域のつながりが大切だと考えている。そのため、個別の施策について、そこまで記載していない。

○会長 地域コミュニティやつながりがないと災害時に組織しようとしても間に合わない。平時から準備しておくことが大切だと思う。他に意見はあるか。今ここでなくても、追加があればメールで受け付けたい。

(意見なし)

○会長 それでは、事務局には本日の意見を踏まえて、答申案の修正をお願いする。修正した内容は、推進会議は本日が最終回になるため対面で共有はできないことから、正副会長が最終確認するというで一任いただけるか。なお、答申前の最終確認が完了した段階で委員の皆様にも共有する。

(異議なし)

■その他

○会長 本日予定された審議事項は以上である。全体を通して質問等はあるか。

<なし>

○会長 最後になるため、各委員から一言お願いします。

(各委員・正副会長より挨拶)

○会長 最後に事務局から連絡事項をお願いします。

○事務局 今後の予定だが、9月末までに答申書をまとめ上げ、10月1日に正副会長より市長へ答申書をお渡しいただく。

また、部会については、開催が現状未定だが、第2回協働共創促進事業審査会が10月ころに予定されている。部会員は、開催の場合はよろしくお願いします。また、市民協働・共創促進事業及びファンファーレの報告会についても来年4月以降となるが、開催予定である。詳細が決定次第、連絡する。部会員の皆さまにおいてはよろしくお願いします。

なお、部会の結果についても、これまでどおり都度答申をいただくことになるので、正副会長の確認の上、手続きを進める。

改めて、二か年に渡り当会議にご協力いただき感謝する。

最後に市民協働推進部長より挨拶する。

(市民協働推進部長より挨拶)

○会長 以上で本日の会議は終了する。